

## 編集後記

今年も暑い夏を迎えている中、令和8年度熊本地震が発生しました。10年前の熊本地震は春先でしたが、今回の地震は暑い、暑い夏の最中、復旧に当たられる方の苦労は比較にならない程大変なことを思料します。体調に気を付けていただきたいものです。また、令和8年8月千葉豪雨、8月末の石川県の豪雨・福井県の豪雨等により浸水などの被害を受けられた方々も多数おられます。

これらの災害で、お亡くなりになられた方に哀悼の意を捧げるとともに、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げ、一日でも早い復旧がなされることをお祈り申し上げます。

編集後記を書いている事務所では、7月23日にエアコンが動かなくなり、連日の酷暑の中で、汗をかかされました。エアコンの使用を前提とした作りの事務所は、窓も開かず、復旧までの約3週間は大変でしたが、夏の災害対策に何が必要となるかを考えるきっかけとなりました。

ウクライナとロシア、米国・イスラエルとイランによる紛争は、依然として終末が予測できない情勢であります。早期の終結が図られることを祈るばかりです。願わくば、紛争に関わった強大な軍事力を誇る二大国には、諸々の国際情勢を紛争開始前の状況に戻していただけるようお願いをしたいところです。

前号で3件の記事で言及があった栽培アズキの起源を、今号では、その事実を解明した研究者ご本人に記事を書いていただきました。大学時代に習った育種学の知識だけでは分かりづらかったものが、科学探偵の内藤健さんが、まるで二時間ドラマの最後に理詰めで犯人を追い詰めるがごとく、栽培アズキの起源が、まぎれもなく日本であることを明らかにしています。ちょっと長めですが、ご堪能いただけたものと思います。

また、今号では、北海道立総合研究機構中央農業試験場の道満さんの「道央地域で安定生産できる中晩生小豆品種の開発強化」では、古の日本人が作り出した栽培アズキの性能の更なる改良を図る試みが紹介されています。栽培アズキに対する育種家の熱い思いが脈々と引き継がれていることに安堵しました。  
(寺田 博幹)

「豆類時報」の内容をより充実させるために、今号でもアンケートを実施いたします。右の二次元バーコードからアンケートのページに遷移しますので、ご利用ください。なお、アンケート調査にご協力いただいた方から、抽選で50名様にデジタルギフト（500円相当）を贈呈いたします。アンケートの締切は、10月末となっています。ご協力をお願いします。



### 発行

公益財団法人 日本豆類協会  
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-2-1  
日土地内幸町 TEL：03-6268-8627  
ビル2階 FAX：03-6268-8628

### 豆 類 時 報

No. 124

2026年9月15日発行

### 編集

公益財団法人 日本特産農産物協会  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
2-15-1 フジタ TEL：03-6689-9428  
人形町ビル7階 FAX：03-3663-7525